平成２８年１２月１６日

甲斐市議会長　小浦宗光殿

創政甲斐クラブ　会長　藤原　正夫
甲斐市民クラブ　会長　斉藤　芳夫

視察研修報告書

１　日　程　　平成２８年１１月１６日（水）～１８日（金）
２　場　所　　長野県長野市　群馬県吾妻郡長野原町　群馬県富岡市　茨城県常総市
３　参加者　　創政甲斐クラブ　藤原　正夫　　内藤　久歳　　三浦　進吾
　　長谷部　集　　山本今朝雄　　米山　　昇（６名）
　　甲斐市民クラブ　斉藤　芳夫　　金丸　　寛　　五味　武彦
　　滝川　美幸　　横山　洋介　　（５名）
　　合計１１名
４　欠席者　　創政甲斐クラブ　山本　英俊（１名）

……

１　長野県長野市松代・夢空間（松代のまちと心を育てる会）研修

□研修目的　合併後の地域振興をどうしていくのか
□研修日時　平成２８年１１月１６日（水）午前１０時～午後４時
□研修場所　長野市松代町「ＮＰＯ法人夢空間松代のまちと心を育てる会」～松代まち並み歩き（旧金箱家住宅、大英寺、真田宝物館、地震観測所、象山地下壕、象山神社、真田邸、旧松代藩文武学校）
□研修概要　合併後に衰退していった町のまちおこしの経過と実際のまち並みづくりを視察研修した。
■感　　想　　長野市松代町は古代から近代までの文化遺産が５キロ四方にぎっしり詰まっている地域であり、特に真田幸村の兄、真田信之が松代藩の初代藩主となって以来、真田十万石の城下町として真田氏伝統文化が今日まで色濃く残る町である。昭和４１年に長野市と合併すると松代町は長野市の中に埋没し、松代独自の文化遺産を活かすことができなくなった。平成５年に上信越道長野インターが開通すると住民によるまちづくりが活発化し、平

甲斐市
第12-65号
28.12.19
収受
議会事務局

2/10付

成１３年６月に「ＮＰＯ法人夢空間松代まちと心を育てる会」（以下「夢空間」）を立ち上げ、行政の後押しを得ながら観光の町松代としてクローズアップされてきた。「夢空間」は、松代全体をまるごと屋根のない博物館としてとらえ、地域に潜在している歴史的文化遺産を掘り起こし全国に発信している。その結果、２０年前の観光客２０万人から今では約５０万人とし、今期は大河ドラマ「真田丸」の効果もあり７０万人程の見込みがある。

「夢空間」の考えは、住民主体のまちづくりを行っていくためには住民自身が行政依存の考え方を変え、住民が我が町の宝を見つけ磨き上げることが必要であるということであった。つまり、行政主導で行うまちおこしではなく、住民独自でまちおこしを行い、それを行政と議員がサポートしていくことが松代町の成功事例であると感じた。甲斐市には松代町のような歴史的まち並みはないが、磨き上げていない歴史的文化財は多く残っている。その歴史的文化財を有効活用できるよう、住民の力を借りて誇れる甲斐市をつくれるように努力していきたい。

【甲斐市民クラブ　横山洋介　記】

松代まち歩きセンター

研修会場内

研修会場内

景観に合わせた案内板

整備された寺町通り

寺町商家（金箱家住宅）内

寺町商家（金箱家住宅）内

景観に合わせたゴミ収集所

旧松代藩鐘楼（日本電信発祥の地）

松代地震観測所

天皇御座所

象山地下壕説明

象山地下壕内

真田邸

旧松代藩文武学校

2　八ツ場ダム建設事業現場視察研修

□研修目的　八ツ場ダム建設の経緯と現状について

□研修日時　平成２８年１１月１７日（木）午前１０時～午後１２時

□研修場所　群馬県吾妻郡長野原町　八ツ場ダム建設現場（骨材プラント、右岸天端）
道の駅八ツ場ふるさと館

□研修概要　八ツ場ふるさと館にて八ツ場ダム概要について説明を受け、バスにて骨材プラント、川原湯温泉代替地、ダム本体現場右岸天端においてそれぞれの現地にて説明を受け研修を行った。

□建設概要　八ツ場ダム建設現地は、群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋に位置する。

⑴八ツ場ダム建設事業の経緯

・昭和２２年　カスリーン台風により利根川が決壊
・昭和２７年　八ツ場ダムの調査に着手
・昭和４４年　初のダム説明会が開かれ、生活再建相談所も開設。
・昭和４５年　八ツ場ダム建設事業　着手
・昭和５５年　群馬県が長野原町に「生活再建案」吾妻町に「振興対策案」を提示
・平成　４年　長野原町と「八ツ場ダム建設事業に係る基本協定締結」
・平成　７年　吾妻町と「八ツ場ダム建設事業に係る基本協定締結」
・平成２７年　八ツ場ダム本体建設工事起工式（２月７日）

この経緯の中で計画地４７０世帯の住民の反発があった。水没等関係住

民の方々の移転先である移転代替土地の整備を行い、平成１９年より分譲手続きを開始、平成２８年３月末までに８６世帯の方々が移転され新たな暮らしを始めています。

⑵八ツ場ダム建設の目的

①洪水調節　　②流水の正常な機能の維持

③新規都市用水の供給｛水道用水・工業用水｝　④発電

⑶八ツ場ダムの諸元

（ダム型式）重力式コンクリートダム

（堤　高）１１６ｍ（堤頂長）２９０．８ｍ（堤体積）約１００万㎥

（総貯水容量）１億７５０万㎥（流域面積）７１１．４㎢

■感　　想　八ツ場ダムは、昭和２２年９月のカスリーン台風で利根川が決壊し、埼玉県から東京都東部にかけて甚大な被害をもたらしことにより、洪水調節の必要性が着目されたことや、首都圏の人口増加に伴う水需要が増えたことで、昭和２７年より調査が始まったそうです。

事前の説明や相談がなされなかったことや、水を大量に使って快適な生活を享受している都会の人のためになぜ一方的に犠牲を強いられるのかなどの理由で強い地元の反発があったり、政権の交代により突然の事業中止があったりと、紆余曲折を繰り返し、カスリーン台風被害から約７０年の時を経て完成の目処がついたそうです。

甲斐市にはダム建設の計画はありませんが、様々な事業において、土地の買収や地元対策、住民説明など市民の皆様のご理解やご協力をお願いしなければならないことがたくさんあります。八ツ場ダム建設のような長期間に及ぶ事業はないとしても、事業の大小にかかわらず、住民への誠実な対応や説明の重要性は同じで、日頃から市民と行政の信頼関係を築いていくことが何よりも必要だと改めて考えました。

【創政甲斐クラブ　三浦進吾　記】

骨材プラントへ向かう車中

骨材運搬用コンベアー

骨材プラントを見学する参加者

骨材プラント

骨材プラントの説明

八ツ場ダム建設工事全体の説明

八ツ場ダム建設工事全体図

使用されている骨材

骨材を運搬する大型ダンプ

ダム本体工事現場入口

ダム右岸天端見学デッキ

ダム右岸天端見学デッキ

ダム本体工事現場（上流）

ダム本体工事現場（堤体）

ダム右岸天端見学デッキ

……

3　富岡市・富岡製糸場視察研修

□研修目的　世界文化遺産、富岡製糸場の概要、施設運営などについて

□研修日時　平成２８年１１月１８日（金）午前２時～午後４時３０分

□研修場所　群馬県富岡市、市役所会議室
富岡製糸場施設各所

□研修概要　堀越英雄市議会議長挨拶、当方斉藤芳夫挨拶、続いて世界遺産部森田課長補佐より富岡製糸場の概要、施設運営について、パワーポイントなどを使

い詳細説明を受けた。

その後、富岡市街を歩き、富岡製糸場の現地において詳細説明を受けた。

□研修内容　○富岡市の現況平成１８年３月富岡市と妙義町の合併で現在の富岡市

○現在人口４９，９２６人、面積１２２．９㎢、一般会計２３６億円、財政力指数０．６３３、実質公債費比率９．１％などの説明があった

○世界遺産登録までの歩みについて。

Ｈ１５年　群馬県が世界遺産登録プロジェクト発表

Ｈ１７年　国指定史跡

Ｈ１８年　主要建造物国指定重要文化財に、その後各種計画を策定

Ｈ２５年　推薦書を世界遺産委員会に提出

Ｈ２６年　ユネスコ世界文化遺産記載決定に至る

Ｈ２６年１２月には、繰糸所、東置繭所、西置繭所の３棟が、国宝に指定、現在西置繭所の保全修理工事を施工中で、期間限定で見学公開している、今回は時間がなかったので見学できなかったが、２０１９年９月頃までは公開しているようなので、国宝の保存工事などはなかなか見られないので、再度伺いたいと思う。

見学者数の推移は、Ｈ１９年有料化後２５万人程であったが、Ｈ２５年度３１万人以上に、世界遺産登録のＨ２６年度は１３３万人に上り、現在も１１５万人の来場者があるとの事であった。明治初期この富岡製糸場は官営期であり、全国から技術伝習工女が集められ、彼女らは技術習得後それぞれの地元で指導者として活躍し、絹産業で日本の近代化に、大きく貢献したとされている。

□遺産価値　我が国の器械製糸工場設立の基礎を築き、近代経済、産業史をはじめ、建築史、産業技術史などを理解するうえで貴重な遺産である

①歴史的価値

明治初期から７０年にわたって生糸は最大の輸出品であり、明治末期には世界最大の生糸輸出国になり、生糸の国として世界に知れ渡っていた。

②建造物的価値

明治初期にヨーロッパ技術を取り入れた、数少ない大型スパントラス構造の建造物で、製糸工場でこれほど大規模な工場は世界的にも珍しく、ほぼ完璧な形で現存するものは他にない、さらに基本設計はフランス人であるが施工は日本人が行い日本人技術者の優秀さを伝える遺構である。

③生産システムの価値

繰糸機、揚返機などを日本人工女の体格に合わせ、アレンジした、その後、諏訪式繰糸機へと受け継がれ、製糸業発展の起点となった。更に蒸気機関、鉄製煙突、下水道などで近隣農民にも配慮し、環境衛生面でも、特筆できる。現在も明治初期の下水道は、ほぼ完全に残存している。

④工場制度の価値

労働管理や、生産工程管理については、工女は全寮制で寄宿舎が与えられ、労働時間は７時間４５分、当初から日曜日は休み、祭日、年末年始、夏休みなどを設け、工女の給料は８階級による能率給で就業していた、福利厚生面でも、フランス人医師を常駐させ、対応に当たり全額無料、食事も寄宿舎も無料、明治１３年からは夜間学校も開き、工場における女子教育を行った。

■感　　想　私は今回で３回目の視察でしたが、何度行っても新しい発見があり、素晴らしい世界遺産だと思いましたが、一つ気になる発見をしました。それは全国から技術習得に工女が集まってきている中で、唯一山梨県から一人もいないという点でありました、説明でも触れていましたが、当時明治６年、２００人規模の、山梨県営、勧業製糸場が建設され、富岡製糸場に次ぐ規模であった、その後県内に１００か所以上建設され技術革新の一翼を担ったという事でありました。その後いろいろの変遷を経、富岡も、山梨も片倉工業に統一されたのではないかと思われます、これらの経過からすると、模範社も何か関係してくるのではないかと思われ、何か新しい発見があるかもと、期待するところでありました。私たち甲斐市の先人たちももしかしたら、世界遺産に匹敵する何かがあるかもとも思われます。今後勉強したいところであります。又、明治初期の木造建築での大型トラス構造は、現在はなかなか採用されない建築であります、木造は弱い、だから鉄骨やコンクリートだとの認識を、改めて見直させる建築物であります、山林資源が豊富な日本では、このようなことも考えなければとの思いを強く抱きました。

今回ご協力いただいた、富岡市議会議長はじめ、事務局の皆様、世界遺産部の皆様、ＮＰＯ法人富岡製糸場を愛する会の理事の、大小原さん（女性）には大変お世話になりありがとうございました、心より感謝申し上げますとともに、研修が無駄にならないよう、今後も努力していかなければと、改めて感じました。

【甲斐市民クラブ　斉藤芳夫　記】

堀越英雄議長挨拶

研修会場：富岡市及び製糸場説明

研修会場：富岡市及び製糸場説明

議場

富岡市役所前

市街地路面標示

まちなか周遊観光バス

富岡製糸場内案内

ボランティアガイドによる説明

東置繭所

繰糸所

繰糸工場入口

繰糸工場屋根（トラス構造）

ニッサンＨＲ型自動繰糸機

東置繭所前

４　茨城県常総市・豪雨被災地研修

□研修目的　関東・東北豪雨による被災状況と対応について

□研修日時　平成２８年１１月１８日（金）午前１０時～午後１２時

□研修場所　茨城県常総市役所　議会棟２階大会議室

鬼怒川堤防決壊現場

□研修概要　昨年９月10日に発生した鬼怒川決壊などの豪雨災害の被災状況とその後の対応や復旧状況について、会議室でスライドなどを使い説明を受けた後、

堤防決壊現場の復旧状況を視察した。

■感　　想　　昨年９月１０日の被災から１年以上が経過しました。堤防の再建工事は概ね完了していましたが、倒壊した個人住宅の再建については、まだ始まったばかりで、いまだにつくば市などの近隣市町村に避難している人は約７０世帯１８０人います。今回決壊した堤防以外にも危険な堤防はたくさんあり、国による茨城県内の整備率は現在１７%と大変低く、国は平成３２年迄に９３%に引き上げる計画になっているとのことでした。

甲斐市においても釜無川をはじめハザードマップなどで危険が予測される河川がありますので、今後も注視していかなければならないと考えます。

常総市が今回の災害から得た教訓は大きく分けて下記の４つになります。①定期的な災害対応訓練 ②迅速な対応（早期の情報収集・分析、対応決定）③人は逃げないものと前提した早めの情報伝達（あらゆる手段を用いる）④空振りを恐れずに避難情報を発令

具体的な課題としては、行方不明者に関する情報の取り扱いや、県災害対策本部など防災関係機関との情報共有、また被災者台帳、罹災判定情報、被災者の居所等の把握については、被災する前の平常時にシステムを作っておく必要があるということでした。

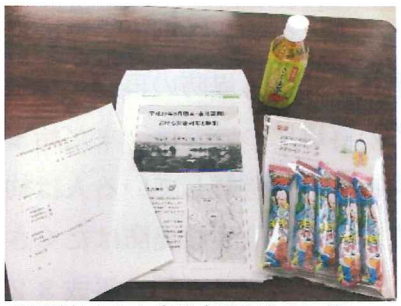
減災の取り組みの一つとして、災害を時系列で想定し避難行動や対応を表にしたタイムラインの策定が最も重要で、さらに住民一人ひとりが自分たちに合った避難に必要な情報・判断・行動を把握した、自分の逃げ方、を事前に決めておくことを目的としたマイタイムラインを自ら検討する取組みが始まったそうです。その先駆的な取組みは国土交通省よりモデル地区として選ばれました。

また、自主防災組織の強化にも力を入れており、補助金を交付し防災士の育成をし、市内小中学校においては一斉防災訓練を実施し水害を想定したワークショップや保護者への引き渡し訓練なども行っている。また消防団にはライフジャケットの配備を充実させる予定だそうです。

いずれの事項も、これまでは充分だろうと考えていたことが、実際に災害が発生すると足りないことが多く、様々な課題が浮き彫りとなったそうです。

おそらく甲斐市が災害に直面した時には同じことが言えると容易に想像できる。こうしておけば良かったなどと後悔することのないよう、実際に被災した自治体や先進的な市町村を参考に、防災減災施策を強化し進めていかなければならないと改めて認識致しました。

【創政甲斐クラブ　長谷部集　記】


千姫が描かれた常総市限定うまい棒

研修会場：被災状況説明

研修会場：被災状況説明

研修会場：安城市・吹田市議会合同

研修会場

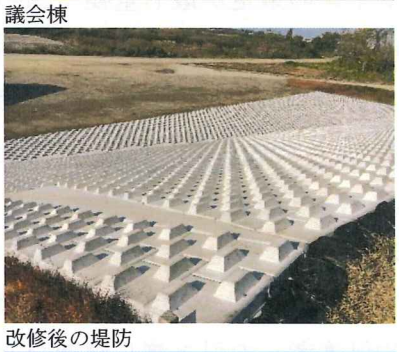
議場

常総市役所前

議会棟

希望の灯り

改修後の堤防


改修後の堤防

改修後の堤防

改修後の堤防

改修後の堤防

改修後の堤防